



Q：病院で、感染性胃腸炎だと言われましたが、どのようなものでしょうか。

A：感染性胃腸炎とは、細菌やウイルスなどの病原体が感染して起こる胃腸炎の総称で、「お腹の風邪」と言ったりします。ウイルス性のことが多く、ノロウイルス、ロタウイルス、サポウイルス、アデノウイルスなど、いろいろなウイルスが原因となります。

冬場に多いのが特徴で、症状としては嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、発熱などですが、症状のある期間が比較的短く、治療法に違いがないことから、特にウイルス検査を行わずに、流行状況や症状から「感

染性胃腸炎」と診断して対処されることが多いのです。有名なのはノロウイルスやロタウイルスで、感染力が強いため潜伏期間は1、2日と短く、しばしば集団発生します。症状は強いものの、それが続く期間は、ロタウイルスの場合5〜6日持続することもあります。ノロウイルスは通常1、2日です。ウイルス性の



場合、特效薬はないため、いずれの場合も症状を軽減するための対症療法となります。予防は、感染者との接触を避けることと、手洗いが重要です。

(岡田俊一・おかだ内科クリニック院長、甲府市北口2-9-12、ニッコー北口駅前ビル2F)

☎0555・2888・1800